

誰が欠けてもダメ

3人知る香川大名誉教授

ノーベル物理学賞の受賞が決まった赤崎勇さん、天野浩さん、中村修二さんの3人と交流があり、自らも青色発光ダイオード(LED)の応用研究に携わる、香川大の岡本研正名誉教授(66)

「3人の同時受賞は当然のこと、非常にうれしい。どなたが欠けても青色LEDの実用化には至らなかった」と喜んで語る。

赤崎さん、天野さん、中村さんのそれぞれの性格について、岡本さんは「全く異なっている」と語る。

赤崎さんは京都大を卒業後、1981年に名古屋大教授に就任するまでの間、神戸工業(現富士通)、名古屋大、松下電器産業(現パナソニック)と研究の場を移してきた。岡本さんによると「自分の業績をひけらかさず、地道にこつこつと研究に取り組む、まさに学者タイプ」という。

天野さんは名古屋大で赤崎さんの研究室に所属し、実際に「窒化ガリウム」から青色LEDの材料となる高輝度の結晶を作り出した。「頭がよいうえ、非常にまじめな人」と岡本さんは評する。研



3氏のノーベル物理学賞決定のニュースを伝えるLEDを使用した大型ビジョン(8日午前、東京・渋谷駅前)

究に取り組む姿勢も師から受け継いだ。

中村さんは徳島大大学院の後、日亜化学工業に入り、青色LEDの量産化に道を開いた。2000年に米カリフォルニア

大サンタバーバラ校の教授になった後、かつての勤務先と発明の対価を巡って訴訟に。岡本さんは

「反対意見を恐れず、自分の考えを堂々と主張する性格で、日本人離れし

た人だ」と話す。

経歴、性格も様々な3人だが、「自分の研究に信念を持ち、一心不乱に取り組む点で共通している。個性がうまく溶け合っ

て受賞に結びついたのでは」と岡本さんは分析している。